

続編

ちょっと一息・・・ ニュージーランド酪農 生産現場の光景



普及センターHP

前回に引き続き、ニュージーランド (NZ) の生産現場の光景からいくつかをご紹介します。
農場現場改善のヒントとなれば幸いです。

放牧地での乾乳牛管理



移動式簡易飼槽 (鉄製)

放牧地で乾乳牛を飼うといっても、放牧草だけではなく、エネルギー源となるコーンサイレージ、ビタミン・ミネラル類を十分に給与し、泌乳期を迎えるために必要な準備を整えます。作業性向上を目的に、四輪バギーでけん引する移動式簡易飼槽で給与していました。飼槽本体にディッピング液の空容器を再利用している事例もありました。



移動式簡易飼槽 (飼槽本体は廃物利用)

雨水・排水の利活用



雨どいと雨水貯留タンク

水資源の貴重なNZでは、軒先の雨どいで雨水を集めてタンクに貯留し、ミルクパーラー・待機場の洗浄用水に利用します。

さらに、パーラーや待機場を洗浄後の排水はポンプアップして、スプリンクラーやイリゲーション(かんがい装置)を介し放牧地に散布します。搾乳関係以外の飼養施設は少ないため、農場でスラリートンカー等の大型散布機械を見かけることはありませんでした。



スプリンクラーによる散布



イリゲーションによる散布

初乳給与



ドレンチャー

初乳給与は、日本では哺乳ビン・バケツでの投与が好まれますが、NZでは繁殖が季節分娩で一定期間に多く分娩するため、初乳を短時間で確実に給与可能なドレンチャー（管を経口挿入、強制給与）が多く使われています。

ただし、初乳はそれほど温められておらず、有無を言わず飲まされる子牛はさぞかし大変かと思えますが・・・。



ドレンチャーでの初乳給与

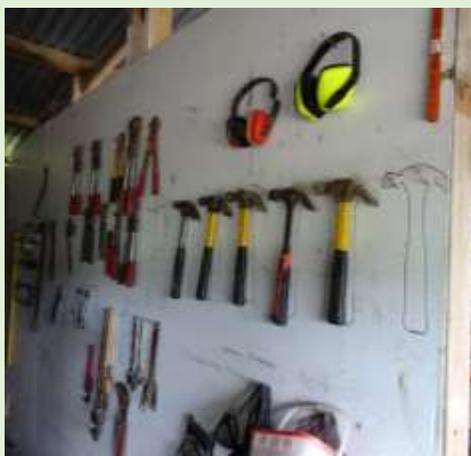
工具の整理整頓

工具を掛けるボードにイラストを描いたり、サイズ順に並べるなど、一目で分かるように工夫しています。

整理整頓が行き届いた工具置き場は、労働時間削減やストレスの解消に直結します。



サイズ順に並べられた工具



イラストで視認性向上

番外編～1頭用ミルクングパーラー！

このパーラーは世界最小！の1頭用で、搾った生乳は隣の部屋にあるチーズ工房へ配管で直ちに送られます。加工原料乳移送の観点からは理想的な配置といえます。

オーナーは80代の老夫婦で、4頭のジャージーを飼い、それぞれの牛別の生乳を使って、牛の名前を冠したチーズを作り、NZや英国のチーズ品評会で高い評価を受けています。



コンパクトで必要最小限の機能を持つパーラー

国・地方が変われば、仕事の仕方、ものの考え方、風習などが大きく異なります。我々にとっては大雑把に感じる部分もあるかもしれませんが、科学に裏打ちされた放牧技術と、労働生産性を追求する姿勢は学ぶべきところが多くあります。これらの写真や資料に興味のある方は、普及センターまでお気軽にご一報ください。